会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和５年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業  （２）教職員の資質能力向上の推進① 効果的な教育成果の公開方法等に関する支援体制づくりの推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第1回産学連携員育成講座開発委員会 |
| 開催日時 | 令和5年7月20日（木）16:00～18:00 |
| 場所 | リファレンス西新宿大京ビル貸会議室 |
| 出席者 | 監督者等：岡村　慎一、成底　敏（OL）  委　　員：柳田　祐大、及川　源太、森川　和哉、藤井　貴志（OL）、  能登　一秀、土井　宏美、三村　隆男（OL）、林　透  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　計10名  請負業者：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　　　計 1名  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計11名 |
| 議題等 | 1. 委員自己紹介（委員各自紹介） 2. 事業概要（柳田）   ・企画提案書を基に3年間の事業の概要について説明。  ―――――――――――意見交換  ・認定規程の第2条の②③⑧が産学連携として押さえておく必要がある。今、文部科学省は企業連携には分野によって幅がある。このため時間数の下限を決定したほうが良いのではないか等の意見が出ている。こうしたことによってさまざまな議論が行われているが、分野として混とんとしている部分について検討していきたいと思っている。成績評価や単位認定について各分野で誰がどのように評価しているのか、どのような基準で評価しているのかについて明確化できていないところに問題があると感じている。こうしたコーディネーションができる人材育成を目指したい。（岡村）  3.産学連携推進員に関する意見交換（柳田）  ・分野によって、既に産学連携を既に実施している分野についてではなく、いまだ手つかずの分野について考えていきたい。（柳田）  ・国家資格等で産学連携が位置づいているような分野ではなく、商業実務分野や文化教養分野などについては産学連携がいまだ未整備であるので、この辺りの分野をターゲットとしていきたい。（岡村）  ・大学でも医師育成などの資格系のものでない部分はできていない。このため既に実施されている分野を参考に手つかずの分野の質保証に着手するのが良いのではないか（林）  ・まさにその通り。（岡村）  ・コーディネータ養成講座等を参考に作ってはどうか（柳田）  ・産学連携は、カリキュラム等に組み入れていくのか（林）  ・フレームや評価基準等についてはできる人材としたい。（岡村）  ・1つの科目のことなのか？（林）  ・最終的な人材育成プログラムと考える。（岡村）  ・キャリコンサルタンとも重要であるが、学習者がしっかりと学んでいく人材としていくことも重要である。キャリアばかりではないと考える。（林）  ・みなさんいろんな形で人材のことを考えているが、最終的な認定基準となる領域の足並みをそろえないと混乱する。能力だけあっても空回りしてしまうので、知識と技能も加える必要があるし、態度をどのように設定するのかを議論していかないと、ターゲットを絞ることは難しい。（三村）  ・当校は、就職にお世話になっているような学校と継続的にお付き合いをしていく形となっている。企業側からすると、学校と連携するメリット等も考えていかないといけない。（森川）  ・当校では、医療以外は担当の教員の主観で連携してしまっているケースが多い。いわは根拠がない連携となっているケースがある。このような部分については、うまく連携できる推進員は重要だと考える。開発工程は、皆様の意見をバラバラと出していくよりも、スケジュール感を見ると、ある程度プロフェッショナルの先生に骨子を確定していただくのがいい気がする。（及川）  ・当校もあまり整備が進んでいない。（土井）  ・当校は、分野により大きな差が出てきている、ホテルやITについてはインターンシップ等について企業に学生を派遣して実施しているがこの評価等については、受け入れ側企業や担当者により異なる評価が出たり、標準化が進んでいない。（能登）  ・当校では、例えば簿記のような学習は、企業から学校に来ていただいて学習を評価していただいている。（柳田）  ・私の学校も柳田さんと同じような悩みで、会計等は税理士に来ていただき学習を行っている。守秘義務の壁などは税理士会と手を組んでやっているが、現在は調整がむずかしい。分野によって格差がある気がしている。（藤井）  ・いろんな学校の先生方のお話を聞いていて、やはり弱い点は一致している。こういった点を支援していくのがこの事業の役割であると感じた。（柳田）  ・職業実践専門課程では、産学連携を単位認定をして評価する。ということになる。従った何の目的でどのようにできるようになったのかを整理できる人材を育成したいと考える。（岡村）  ・本日、皆様方から頂戴した意見を基に、私たちが育成するべき人材像について次回までに素案を作り、皆様方から意見を頂戴したい。（柳田）  4.次回のスケジュールについて  ・第2回委員会は8月23日16～18時　東京にてハイブリッド |
| 配布資料 |  |

以上